

第3章 Appendix 最新版でこう変わる

プラットフォーム作成におけるSDSoC 2016.2とSDx 2016.3の違い

横山 雅一 Masakazu Yokoyama

本稿執筆現時点(2016年12月)における最新のSDSoCは、SDAccelとともにSDx 2016.3のIDEの中へと統合されました。Windows版のインストール・ディレクトリもC:\¥Xilinx¥SDSoC¥2016.2からC:\¥Xilinx¥SDx¥2016.3へと変わりました。

ユーザとして使用する上では大きな変更は見受けられませんが、プラットフォームの構成は若干変わりました。

り、ソフトウェアのための構成ファイル名が<プラットフォーム名称>_sw.pfmから<プラットフォーム名称>.spfmとなり、それらがxpfmファイル内で指定されるようになりました。よりフレキシブルになった印象です。

全体のディレクトリ構成も、よりすっきりした形に変更されました。

● ハードウェア構成ファイルの作り方はほぼ同様

hpfmやspfmの中身は変わったようですが、hpfmの作り方は*_hw.pfmの作り方と変わりはありません。また、作成時に用いられるtclの関数名、例えばsdsoc::pfm_axi_portなどは、名称も引き数も変更がなく、SDSoC 2016.2を知っていればすぐに行うことができるでしょう。

● ソフトウェア構成ファイルの中身は大幅変更

ソフトウェアの構成ファイルであるspfmは、*_sw.pfmとは全く違うフォーマットになりました。

1. トップのXMLが増え pfmファイルはhpfmとspfmへ

● ファイルとディレクトリの構成が異なる

SDx 2016.3では、ソフトウェアとハードウェアの構成ファイルを統合するトップのXMLであるxpfmファイルが追加されました(表1)。ハードウェアのための構成ファイル名が<プラットフォーム名称>_hw.pfmから<プラットフォーム名称>.hpfmとな

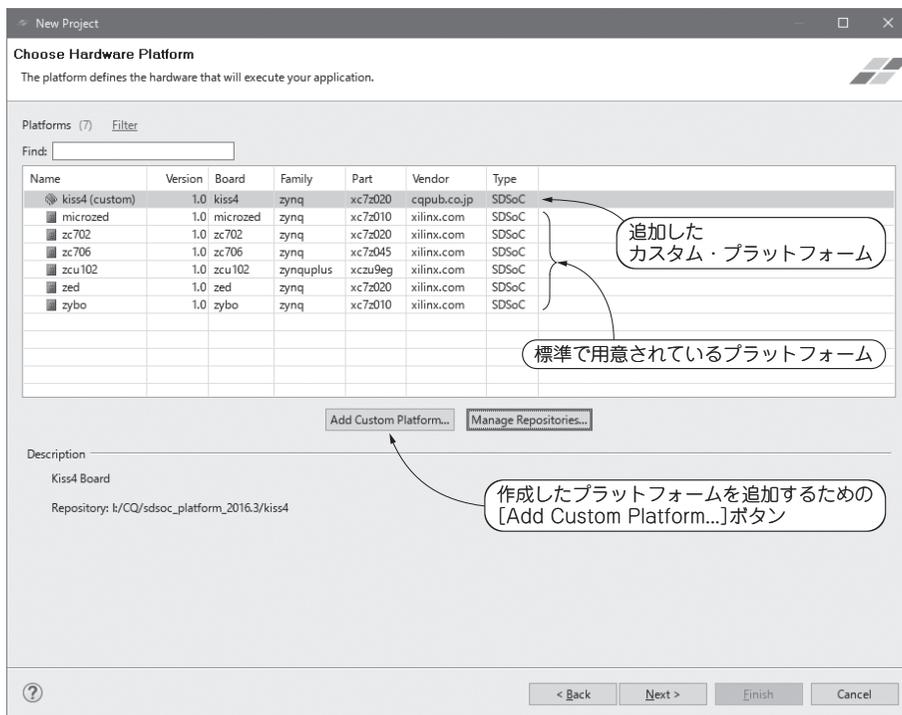


図1 プラットフォームの一覧表示